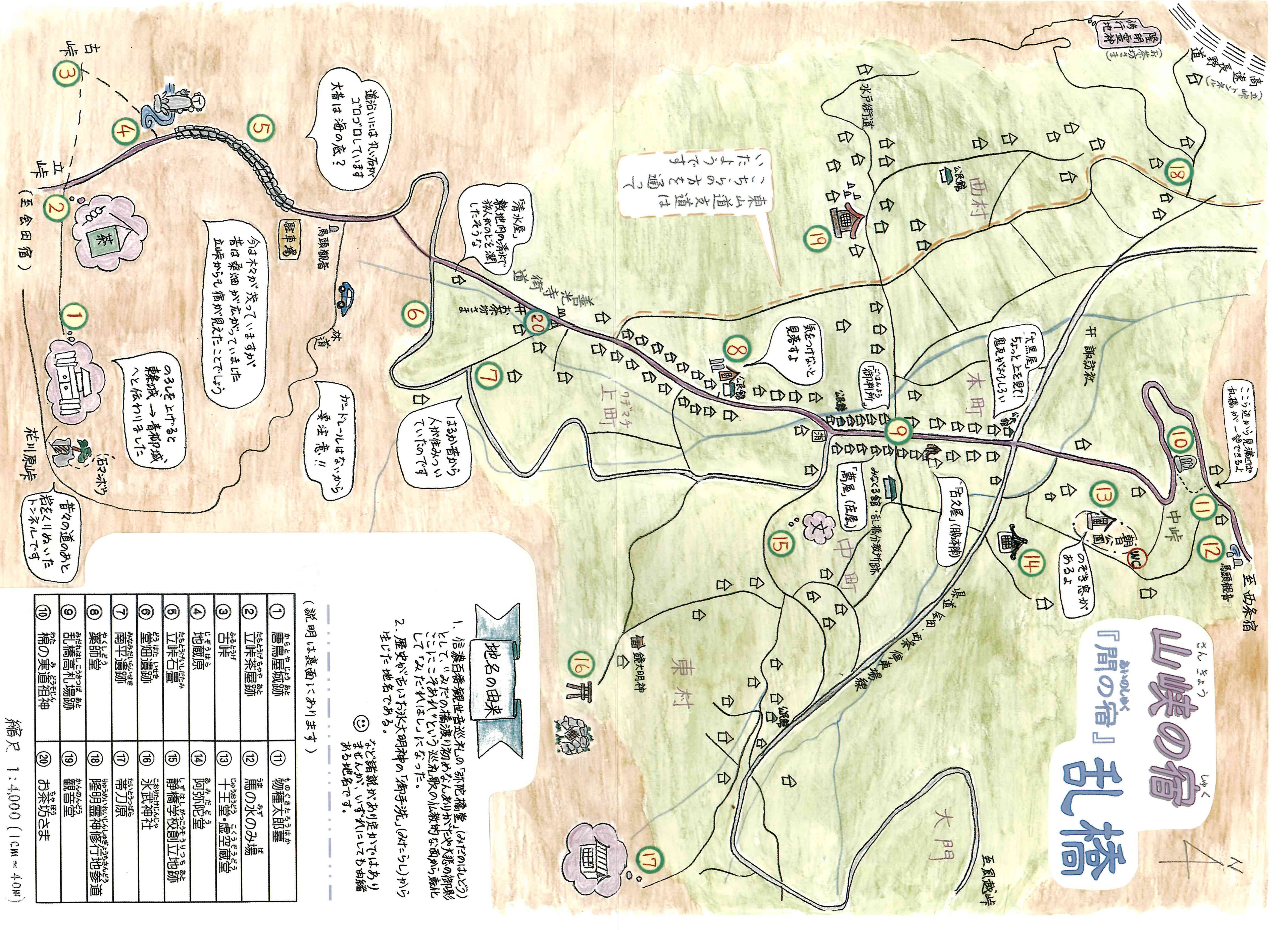
山峡（さんきょう）の宿（しゅく）
『間の宿（あいのしゅく）』乱橋


至 西条宿
馬頭観音
こちら辺から見渡せば乱橋が一望できるよ
のぞき窓があるよ
朝日公園
WC
中峠
諏訪社
「大黒屋」ちょっと上を見て！鬼瓦がおもしろい
「御判所」（ごはんじょ）
公民館
本町
「古久屋」（脇本陣）
「嶌屋」（庄屋）
みなくる館・乱橋分教場跡
中町
文
県道会田・西条停車場線
東村
鏡大明神
大門
至 風越峠
公民館
西村
隆明霊神修行地（お茶坊さま）
高速道長野道（立峠トンネル）
水戸街道
東山道支道はこちらの方を通っていたようです
気をつけないと見落すよ
公民館
上町（ワデマチ）
消
善光寺街道
お茶坊さま
「清水屋」敷地内の清水で旅人がのどを潤したそうな
はるか昔から人が住みついていたのです
ガードレールはないから要注意!!
林道
駐車場
馬頭観音
道沿いには丸い石がゴロゴロしています 大昔は海の底？
古峠
立峠
（至会田宿）
茶
今は木々が茂っていますが昔は桑畑が広がっていました 立峠から宿が見えたことでしょう
のろしを上げると東條城→青柳城へと伝わりました
（石マンボウ）
花川原峠
昔々の道のあと 岩をくりぬいたトンネルです
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

地名の由来

1. 信濃百番観世音巡礼の「弥陀橋堂」（みだのはしどう）として、"みだの橋渡り初めがなんありがたや大悲の御影ここにこそあれ"という巡礼歌の仏教的な面から転化して「みだれはし」になった。
2. 歴史が古いお氷大明神の「御手洗」（みたらし）から生じた地名である。

☺ など諸説があり定かではありませんが、いずれにしても由緒ある地名です。

（説明は裏面にあります）

①	唐鳥屋城跡（からとやじょうあと）	⑪	物種太郎墓（ものくさたろうはか）
②	立峠茶屋跡（たちとうげちゃやあと）	⑫	馬の水のみ場（うまのみずのみば）
③	古峠（ふるとうげ）	⑬	十王堂・虚空蔵堂（じゅうおうどう・こくうぞうどう）
④	地蔵原（じぞうはら）	⑭	阿弥陀堂（あみだどう）
⑤	立峠石畳（たちとうげいしだたみ）	⑮	静橋学校創立地跡（しずはしがっこうそうりつちあと）
⑥	堂畑遺跡（どうはたいせき）	⑯	氷武神社（こおりたけじんじゃ）
⑦	南平遺跡（みなみだいらいせき）	⑰	帯刀原（たいとうっぱら）
⑧	薬師堂（やくしどう）	⑱	隆明霊神修行地参道（りゅうめいれいじんしゅぎょうちさんどう）
⑨	乱橋高札場跡（みだれはしこうさつばあと）	⑲	観音堂（かんのんどう）
⑩	棉の実道祖神（わたのみどうそじん）	⑳	お茶坊さま（おちゃぼうさま）

縮尺 1:4,000（1cm ≒ 40m）

①唐鳥屋城跡（からとやじょうあと）

標高 1,079M

築城は鎌倉時代（1243～46）で、小県の海野氏の一族である藤沢氏の居城でした。青柳氏領最南限の山城で、のろし台としても使用されました。主郭は東西12間、南北3.5間、北に1段低く東西3間・南北5間の小郭、他に数条の帯郭、空堀等がありました。戦国時代（1532～54）、小笠原氏により滅ぼされました。

③古峠（ふるとうげ）

東山道支道は、この峠を越えて、地蔵原で善光寺街道と合流したようです。峠の嶺は牛の寝床ぐらいの広さがあり、安曇野が一望できます。昔は安曇野方面からこの峠を越えて、長野方面へ出かけた人もいたそうです。しかし、今ではもう通る人もありません。

⑥堂畑遺跡（どうはたいせき）

南平遺跡より一段上にあり、縄文中期の土器や、古墳時代前期後半の小型の石くわが出土しています。筑北地域には縄文遺跡は、50ヶ所以上あるそうですが、この山間の地域にも何千年も昔から人々が生活していたのです。

⑩棉の実道祖神（わたのみどうそじん）

道祖神は路傍の神です。村の守り神や子孫繁栄、交通安全の神として信仰されています。

手に持っているのは棉の実です。乱橋では江戸時代、棉が栽培されており、「棉のし場」という地名も残っています。この道祖神には、棉の一層の収穫の願いもこめられているのです。

⑫馬の水のみ場（うまのみずのみば）

ここの湧水は豊富で、旅人も馬も喉をうるおし、腰を伸ばしたことでしょう。そばには、馬頭観音と馬頭尊の字碑が並んでおり、神様といっしょに祀っています。このような信仰は、筑北地域ではここ乱橋だけです。

⑯氷武神社（こおりたけじんじゃ）

御神体は白い夫婦蛇と信じられていて、山の神で水神です。

江戸時代は、毎年松本藩主に貴重品であった氷を献上したという記録もあります。また、養蚕の盛んであった明治初めから昭和30年頃までは、風穴を使い蚕種の冷蔵保存に利用しました。「おこおりさま」ともよばれています。

⑰帯刀原（たいとうっぱら）

唐鳥屋城主、藤沢大道（帯刀）の館がありました。藤沢氏は木曽義仲の四天王の一人である海野氏の一族で、木曽氏との関係から、木曽氏に用いられた「帯刀」に改名したものかと考えられます。高札場より四町余り東南にあり、八間半に三間半の館であったようですが、今はその跡もありません。

参考：文化財ガイドブック，石畳の会，村誌

筑北地域は、古代、信濃国更級郡の麻績郷として、東山道支道が通る街道筋の歴史を歩み始めました。江戸時代には、この支道とほぼ同じ位置を北国脇往還、通称善光寺街道と呼ばれる当時の一級国道が、中山道の洗馬宿で分かれ、郷原・村井・松本・岡田・刈谷原・会田の各宿から立峠を越えて、青柳宿・麻績宿へと延びていました。そして、猿ヶ馬場峠を越えて稲荷山宿を経て、篠ノ井の追分宿で北国街道に合流し、丹波島を通り善光寺に至っていました。

その街道筋にある乱橋と西条は間の宿（あいのしゅく）として、明治後期の鉄道の開通まで栄えました。間の宿は旅人に休憩などの便宜を与えるために設けられたものですが、険阻な立峠の難所は旅人には厳しく、実際には宿泊する人が多かったようです。そのため、会田宿や青柳宿との止宿をめぐる争いが多く、道中奉行の裁許にまで及んだこともあります。また、両間の宿とも宿駅景観をなし、その屋号からは宿駅同様の家職をうかがうことができます。

④地蔵原（じぞうはら）

きれいな湧き水が出ています。宝永6年（1709）の建立といわれる、像高94cmの石地蔵が蓮華台の上に立っています。誰が建てたのか、いわれもわかりません。地名はこの地蔵尊からとっています。

⑤立峠石畳（たちとうげいしだたみ）

将軍の代替わりの度に巡見使がやってきましたが、その対応が大変でした。天明8年（1788）の記録に次のような記述があります。

「会田御止宿、桑原御宿までの内、坂北組12か村名主会田宿まで罷出候う事。坂北組12か村名主組頭百姓代など立峠峯まで未明より出張、道橋普請の儀は会所西条弥四郎方に相立ち、麻績、坂北組相談にて和談の上乱橋村より立峠峯まで乱橋、西条、東条、大沢新田四か村にて作り申し候う」

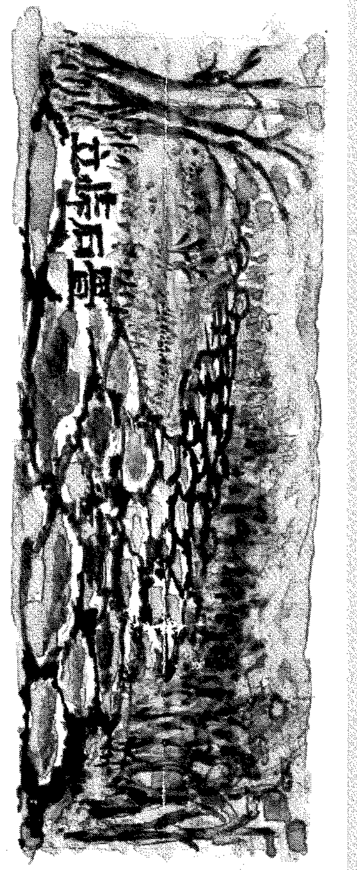
このように村全部で立峠の普請をしなければならなかったわけで、石畳にしたらどうかという意見が出たのは、無理からぬことであったのでしょう。

⑦南平遺跡（みなみだいらいせき）

1万2000年前の旧石器時代のもので、旧本城村最古の遺跡です。民家の敷地内から搔器（スクレイパー）や石斧が出土しました。

⑧薬師堂（やくしどう）

勢至大菩薩の大きな石碑が堂の横にあります。堂内には月待念仏講で二十三夜講の主尊である如意輪観音が祀られています。明治初め、静橋学校の場所から現在地に移転されました。



⑬十王堂・虚空蔵堂参道（じゅうおうどう・こくうぞうどうさんどう）

十王とは、冥土で亡者を裁く裁判官のことで、その十王を祀っているのが十王堂です。今も初七日や四十九日、一周忌、三回忌などの法要に、この十王信仰が残っています。

虚空蔵堂は、真実の知恵を無尽蔵に有する虚空蔵菩薩を祀っています。福徳・知恵・音声に功徳があるといわれています。

以前は、祠の小石をお借りして、体をなぜれば治るといわれていました。

⑭阿弥陀堂（あみだどう）

本尊は阿弥陀如来坐像、木彫り、制作年は不明です。西沢姓の人たちが管理しており、同家の言伝えによりますと、体内にはお金が入っていたそうで、胎内仏は金銅製であったそうです。

⑲観音堂（かんのんどう）

本尊は日不見（ひみず）観音と呼ばれる木彫彩色観世音菩薩立像で、元禄時代初期の物です。

近くの滝の沢にあった唐鳥屋城主藤沢氏の菩提寺「久祥寺（きゅうしょうじ）」の堂と思われます。

婦人病に効験があるとされ、多くの腰巻が奉納されています。

私はある晩、子供の頃の夢を見ました。近所の子供たちと『かごめかごめ』をして遊んでいる夢でした。「か～ごめ、かごめ、か～ごのな～かの～♪♪♪」・・ふと気がつくと、中に一人見慣れない子がいます。なぜか私には、その子が橋姫だとわかりました。夢は、目覚めると覚えていないものですが、この部分だけは今も鮮明に記憶に残っています。

橋姫は、唐鳥屋城主藤沢大道の愛娘でありました。唐鳥屋城が小笠原氏に攻め込まれた時、姫は会田村四賀矢久（今の松本市矢久）に無事に逃れることができました。そのとき姫は子供を宿しており、かの地で無事出産したそうです。その出産した時の胎盤を家来の某が、藤沢氏の菩提寺である『久祥寺』に納め、今はその場所に観音堂が建てられています。そのためか、婦人病に効験があるとして崇められてきました。

橋姫のひととなりや、その後の人生についても、今では言い伝えも無く忘れ去られてしまいましたが、あの夢は私に姫の悲しい人生を思い起こしてほしいという願いであったのでしょうか。

《西沢徳江日記より》

---

②立峠茶屋跡（たちとうげちゃやあと）

峠の頂上で聖山方面を望むと、これから進む善光寺への道も見えます。ここは「あの山を越えれば善光寺平だ、まずはここで一服」といった場所ではないでしょうか。茶屋は『みたらしや』がいちばん大きく、他に3軒ほどありましたが、現在はその柱の跡を礎石にとどめているだけです。

⑨乱橋高札場跡（みだればしこうさつばあと）

高札場は町の辻など、交通の要所にあり、ここは善光寺街道、風越峠道、水戸街道の合流地です。御判形という、幕府方や藩から出された法度や掟書などのお布令を高札に掲示していました。

⑪物種太郎墓（ものくさたろうはか）

『東筑摩郡村誌』には本城村の最後に「物種太郎乃墓」が記されており、本文陵墓の項で「物種太郎墓、本村南、中峠の鬱林の中にあり、其伝来を失う、塚上に碑あり、四面文字あれどもこけ石を蝕し、文字詳ならず、里老物種太郎の墓と云うのみ」と記載されています。

⑮静橋学校創立地跡（しずはしがっこうそうりつちあと）

当初は薬師堂で教育を始めましたが、その薬師堂を移転し学校を建てました。『静橋学校』といい、明治7年2月19日、開校しています。現在はその痕跡も確認できませんが、生徒数34人（男:30、女:4）、元資金2,000円で始まりました。

⑱隆明霊神修行地参道（りゅうめいれいじんしゅぎょうちさんどう）

隆明は、文化6年武蔵多摩郡に生まれ、高尾山で修行しました。日本各地の霊地霊山を訪ね修行すること20年余、特に御嶽を道場にする修行において神通力を得ました。飲み水のない家に湧水地を教えたり、先達として御嶽に登山するとき深い霧の中でも呪文によって通路を切り開くなど、高度な霊力を会得していたそうです。40歳代で旧本城村に至り、乱橋、西条の境である鷹巣山の岩穴を修行地として定住しました。村人からは『お茶坊さま』と呼ばれ、親しまれていましたが、明治19年、77年の生涯を閉じました。

⑳お茶坊さま（ちゃぼう）

里でも参拝できるように、隆明霊神の遺品を納め祀っています。里の祭典は4/18,11/18に、山の祭典は5/18,10/18に行われます。